



校長室だより

校長室の窓

第 8 号

平成28年1月15日
萩市立福栄中学校
発行：柳林 浩一

努力という才能

プロのスポーツ選手や芸術家など、「才能と努力、どちらが大切なのか」とよく話題になることがあります。

先日、あるお店で待っている間、そこに置かれていた雑誌に目をとおしていると、ある作家が「才能と努力」ということをテーマに、サッカーの日本代表チームの主力選手として活躍した中田英寿選手を取り上げて、書いていた記事が目にとまりました。とても心に残った文章なので、お店の人をお願いしてコピーをとらせてもらいました。

中田英寿の現役時代、幼いころの彼のエピソードを聞いたことがある。小学2年生のころ、地元のクラブでは、日曜に、小学1年&2年生チームで2試合するというスケジュールが組まれていたらしい。中田は2試合終えた後、小学3年&4年生チームから「試合に出てくれ」と要請され、2試合を戦い、さらにそのあと小学5年&6年生チームからも助っ人を頼まれ、いつも、計6試合に出場したそう。4試合目で左足がけいれんを起こし、5試合目で右足がけいれんし、走れなくなって、6試合目でゴールキーパーをやったとっていた。それでも、年長のゴールキーパーよりも上手かったらしい。



1998年、イタリアのペルージャというチームに移籍したとき、わたしは初戦から3週間ほど滞在し、3試合を見て、試合がない日は練習を見に行った。（中略）

ある雨の日、ま、行ってみるか、と軽い気持ちで練習場に行こうとしたら、途中から豪雨になって、思いっきり道に迷ってしまい、普段なら20分で到着するのだが、1時間半もかかってしまった。練習場に着くと、中田が一人、ずぶ濡れになりながらフリーキックの練習をしていた。他には誰もいなかった。こんな雨だし、すぐに終わるだろうと思いながら見ていたが、中田は暗くなってボールが見えなくなるまで蹴り続けた。

なんで、あんな雨の中、たった一人でボール蹴っていたの？ その夜、食事しながらそう聞くと、質問の意味がわからないという表情で、中田は答えた。

「だって、雨でも、サッカーのゲームは中止にならないですよ」

中田英寿と付き合っているとき、いつも思った。

「どんな人間でも、これだけ練習したら、きっとそれなりの選手になれるだろう。これだけの練習ができるというのが才能なんだ」

わたしは、今でも、豪雨の中、黙々とボールを蹴っていた中田英寿の姿を、ふと思い出すことがある。わたしもずぶ濡れになり、寒かったが、とても幸福な時間だった。才能というのが何なのか、はっきりとわかった瞬間でもあった。

中田選手の日々の練習の姿を取り上げ、「努力を続けることができる、それこそが才能であり、それ以外にはない」ということを確信したある作家の話でした。現在、福栄中学校は、「ひたむき・ぬくもり・さわやかを共に大切にする学校」をめざして、さまざまな活動に取り組んでいます。私は、文中の中田選手の姿から、「ひたむき」に物事に打ち込んでいる人間の姿を強く感じました。